

2022/4/1～2023/3/31

令和4年度 年次報告書



特定非営利活動法人 地球緑化センター



第 29 期緑のふるさと協力隊活動写真より

▶目次

- P.1-3 … 事業報告 緑のふるさと協力隊事業
- P.4-6 … 事業報告 体験交流事業
- P.7 … 事業報告 緑の学校事業・広報 P R 事業
- p.8 … 会計報告
- p.9 … ご支援ご協力をお願い

事業報告

令和4年度（2022年度）は、八重洲二丁目中地区再開発事業に伴い、30年近く事務所を構えていた八重洲から八丁堀へと事務所を移転しました。これまで順調に各事業を推進することができましたのも、会員、関係者の皆様のご支援ご協力によるものと心より感謝申し上げます。

1. 緑のふるさと協力隊事業

若者の長期農山村貢献活動。29年間で828名が参加。

総務省「地域おこし協力隊」のモデルにもなったプログラム。

（1）第29期緑のふるさと協力隊の派遣

派遣先：12市町村（自治体名、受入回数）

岩手県一関市⑫、山形県小国町⑬、群馬県上野村⑯、新潟県粟島浦村⑦、愛知県豊根村⑯、愛知県幸田町②、石川県白山市（白峰地区⑳、白山観光協会②）、福井県坂井市⑩、岡山県鏡野町㉑、宮崎県諸塚村⑳、宮崎県日之影町㉑、沖縄県東村⑳

派遣人数：14人（男性6人、女性8人）

内訳：社会人9人、学生5人（うち休学2人）平均年齢：25.7歳

活動期間：令和4年4月6日（水）～令和5年3月19日（日）

事前研修：4月6日（水）～12日（火）6泊7日 山梨県立ゆずりはら青少年自然の里（山梨県上野原市）

内容：講座、フィールドワーク、個人面談、個人発表「現地活動に向けて」

新型コロナウイルス感染症の感染対策を講じたうえで研修を実施しました。隊員は研修の1週間前から検温や行動履歴の記入、PCR検査で陰性を確認して事前研修に参加。派遣先着任後にもPCR検査を実施し検査結果判明後から本格的に活動を開始させました。



受入先担当者会議：6月7日（火）東京国際フォーラム会議室（東京都千代田区）

受入市町村担当者の情報交換及び隊員サポートに関する意見交換を目的として3年ぶりに実施しました。例年1泊2日の日程で行っていましたが、新型コロナウイルスの流行状況を考慮して単日での開催としました。



現地訪問：7月～8月 派遣先 12 市町村を事務局職員が訪問。隊員や受入先担当者面談、活動先訪問
派遣先を事務局職員が訪問し、隊員、受入先担当者、および地元活動先の方などから状況を聞き取り、活動地見学などをして、活動の調整、アドバイス等を実施しました。

中間研修：9月13日（火）～15日（木）2泊3日 山梨県立ゆずりはら青少年自然の里（山梨県上野原市）
内容：情報交換、個人発表「前半の活動を振り返って」、グループワーク「“ふるさとの宝物”、を探して、つないでいく～協力隊だからできることを考えてみよう！～」、事務連絡など

これまでの活動に対する取り組み方や考え方を振り返り、協力隊事業の意義と個々の目標を再確認しました。活動を充実させるためのヒントを見つけ、今後の活動に向けた英気を養う機会ともなりました。



総括研修：3月16日（木）～19日（日）3泊4日 国立オリンピック記念青少年総合センター（渋谷区）
内容：個人発表、報告会の準備など

約1年ぶりの再会となった総括研修では、初日にこの1年間の活動を振り返る個人発表を行いました。その後は活動報告会に向けての話し合いや準備などに取り掛かりました。



活動報告会「エキサイト☆ふるさと2023」：3月18日（土） 連合会館（東京都千代田区）

隊員たちが一年間の緑のふるさと協力隊での活動や、農山村での暮らしを通じて感じたこと・考えたこと、また、活動先の魅力について発表しました。

プログラム：①活動地域の紹介（個人発表） ②テーマ別グループ発表

テーマ：「緑のふるさと協力隊を経験して」「私たちのこれからの生き方」

※当日の様子はYouTube「緑のふるさと協力隊」チャンネル（右上QRコード）から視聴できます。





(2) 「若葉のふるさと協力隊」(短期体験プログラム)の実施

農山村で暮らしてみたい、活動してみたいという農山村と関わるきっかけを求めている人や、「緑のふるさと協力隊」に興味を持っている若者たちを対象に、農山村での暮らしを体験できる機会として、8月～11月に12地域で開催を計画しましたが、台風14号の影響により、宮崎県諸塚村は中止。

開催地(11ヵ所)：岩手県一関市、山形県小国町、群馬県上野村、新潟県粟島浦村、愛知県豊根村、愛知県幸田町、石川県白山市、福井県坂井市、岡山県鏡野町、宮崎県日之影町、沖縄県東村

参加者：34人(男性9人、女性25人)内訳：学生…23人、社会人…11人



◎参加者の感想

「非常に濃い5日間でした。地域の皆さんには、本当に温かく迎えてくださり、優しい方たちであふれていることが感じられました。活動を通じて知ったことを必ず発信しようと思います。」「とても温かく接していただき、色々なことを教えていただきました。大好きな村になりました。」

(3) 令和5年度(第30期)へ向けて

受入先の募集では、全国950市町村へ受入先募集要綱を配布し、全国山村振興連盟・全国町村会等の機関誌に募集記事を掲載していただきました。隊員の募集では、ポスターをリニューアルし、東京、大阪、名古屋、福岡で合計7回、OBOGの体験談も聞ける募集説明会を開催しました。また、①Twitter等への広告②Web掲示板への投稿③求人サイト「日本仕事百貨」記事掲載④SNSへの投稿(Facebook、Twitter、Instagram、note)等、インターネットを活用した募集を実施しました。

◎派遣先：9市町村、派遣人数：10人(男性4人、女性6人)



(4) 関係団体との連携

緑のふるさと協力隊 OBOG との協力連携

- ・緑のふるさと協力隊第28期の文集を発行しました。
- ・緑のふるさと協力隊サポーター制度への呼びかけをおこないました。

対象者：緑のふるさと協力隊 OBOG

サポーター年会費：3,000円(年度毎の更新)



2. 体験・交流事業



(1) 森林ボランティア「山と緑の協力隊」

国有林・公有林をフィールドとした市民参加の森林づくり活動。

これまでに 300 回以上のプログラムを開催、のべ 2 万人が参加。

森林ボランティア活動「山と緑の協力隊」の開催 【参加者合計129人】

令和 4 年度は、赤沢、三宅島、湘南海岸林、高田松原、高取山の 5カ所で合計 11 回の開催を予定していましたが、新型コロナウイルスの影響により、7月の三宅島プログラムは中止になりました。

赤沢プログラム（長野県上松町 赤沢自然休養林）

5月21日（土）～22日（日） 間伐、自然散策 参加者 7人

10月22日（土）～23日（日） 間伐、自然散策 参加者 11人



◎参加者の感想

「初めての林業に関する作業もとても楽しかったが、木や林に関するお話を沢山聞いて良かったです。」
「のこぎりで木を切る大変さとやりがいを感じました。木を切ることで空が開けて日光が入ってきた際にはとても達成感が得られました。」

三宅島プログラム（東京都三宅島）

7月1日（金）～3日（日） 植樹、島内散策 新型コロナウイルスの影響により中止

10月7日（金）～9日（日） 植樹、島内散策 参加者 19人



◎参加者の感想

「最初は植える所が分からなかったけど、だんだんすぐに見つけられるようになって作業ペースが早くなると楽しかったです。」
「島内の噴火の歴史がよくわかり、植物の力を知ることができました。」

高田松原プログラム（岩手県陸前高田市）

9月10日（土）～11日（日） 草取り、防災学習 参加者 11人



◎参加者の感想

「普段は体験できないような松の添え木の撤去作業を参加者全員で協力して進めることができました。」
「実際に震災にあわれた方のお話は心にくるものがあり、津波の高さなどをリアルに感じました。」

高取山プログラム（滋賀県多賀町）

11月12（土）～13（日） 植林、間伐 参加者7人



◎参加者の感想

「植林から間伐、利用までこれだけ持続可能に循環している森をみることでよかったです。」
「木材を使った製品を使うようにしたいと思いました。」

湘南海岸林ボランティア（神奈川県藤沢市、茅ヶ崎市、平塚市）

第67回 6月18日（土）草刈り 参加者12人

第68回 7月9日（土）つる伐り、草刈り 参加者17人

第69回 9月3日（土）つる刈り、草刈り 参加者12人

第70回 11月19日（土）間伐 参加者18人

第71回 令和5年3月11日（土） 植栽 参加者15人



◎参加者の感想

「みんなで協力して木を倒すことは非日常的でリフレッシュできました。達成感があり楽しかったです。」
「砂防林が都市の生活を支えているのだと実感できました。」
「安心して生活できる環境を維持するためのお手伝いが少しでもできたことは、私にとって充実した時間でした。」

（2）企業における社会貢献活動、CSR、社内研修および交流活動の支援協力

企業主催のボランティアプログラム支援 【参加人数 135人】

令和4年度も企業と受入側をつなぐコーディネーター役として連絡や調整を行いました。

メタウォーター株式会社（東京都奥多摩町）

4月16日（金） 新入社員研修の一環として 参加者48人

植樹（ヤマザクラ・シバグリ・トチノキ合計60本）

10月2日（日） 草刈り 参加者4人



電機連合 (岩手県陸前高田市) 5月28日(土)～29日(日) 草取り 参加者9人

株式会社 LIXIL 住宅研究所 (山梨県上野原市) 6月23日(木) 添え木撤去、草刈り 参加者25人

11月14日(月) 草刈り、木材団地見学 参加者23人

三菱商事エネルギー株式会社 (滋賀県多賀町)

令和5年3月25日(土)～26日(日) 植樹、間伐 参加者26人



(3) 中国・緑化交流事業

団体設立の原点である中国での植林ボランティア。1993年から中国政府との連携で、内モンゴル自治区伊金霍洛(エジンホロ)旗、河北省豊寧県、重慶市など5カ所で実施。これまでに日本から120回以上植林団を派遣し、約2,500人が参加、ポプラなど747万本を5,600haに植林。

緑の親善大使の派遣

新型コロナウイルス感染症の影響に伴う渡航制限等のため「親善大使」は実施しませんでした。

日中植林・植樹国際連帯事業

日中友好会館の助成を受け、内モンゴル自治区エジンホロ旗、河北省豊寧県での植林活動を実施しました。

①内モンゴル自治区エジンホロ旗ハラサ地区

植林面積：10ha

植林樹種：ショウジマツ

植林本数：8,400本

植林時期：4月～5月

技術者派遣：5月19日(木)～21日(土)

中国農業科学院内蒙古草原研究所 テストセンター 王宝藍

内蒙古自治区林業科学院 乾燥地林業技術研究センター 張雷



②河北省豊寧県シャオバズ郷

植林面積：13ha

植林樹種：アブラマツ、ショウジマツ

植林本数：14,430本

植林時期：8月～9月

技術者派遣：令和5年2月27日(月)

オンライン会議で実施



株式会社日本触媒 地球温暖化防止と日中友好の森づくり

令和4年度で事業終了

場所：内モンゴル自治区エジンホロ旗小ホロ地区

写真：令和4年11月撮影

(第1回植林地:平成20年植林)



3. 緑の学校事業

児童・生徒を対象とした環境教育プログラム

訪問学習、イベント出展を通じて、子どもたちへ緑の大切さや自然と触れ合うことの楽しさ、森林の役割などを伝えています。

(1) エコ語り部チームの活動

新型コロナウイルスの流行状況が落ち着いてきたこともあり、11月に定例会を開催しました。

4. 広報・PR活動、その他

地球緑化センターの活動を広げるための広報活動、関係団体との連携・協力に取り組みました。

(1) 機関誌、会員向け情報誌の発行

- ・機関誌「タマリスク」第149号（7月発行）、第150号（令和5年2月発行）
- ・会員向け情報誌「緑の通信」年3回発行（7月、10月、令和5年2月発行）

(2) 各種展示及びイベント参加

第93回メーデー中央大会 4月29日（金・祝）代々木公園（東京都渋谷区）

みどりとふれあうフェスティバル 5月14日（土）～15日（日）木場公園（東京都江東区）

中央区エコまつり 6月4日（日）あかつき公園（東京都中央区）※資料配布

中央区健康福祉まつり 2022 10月23日（日）あかつき公園（東京都中央区）

中央区環境活動フェス 2022 11月12日（土）～14日（月）中央区立環境情報センター（東京都中央区）



(3) ホームページ、SNS、ブログなどを活用した広報活動

プログラム告知、開催案内としてホームページやWEB掲示板に投稿したほか Facebook、Twitter、Instagram 等 SNS に適宜活動報告などを掲載して広報活動を進めました。

(4) 講演、寄稿など

- ①愛知県幸田町・部課長研修会で「緑のふるさと協力隊」について講演 12月15日（木）
- ②農村計画学会誌 41巻3号（12月発行）寄稿
地域と若者をつなぐー1年間ボランティア「緑のふるさと協力隊」の29年ー
- ③緑のふるさと協力隊 活動報告会の様子を YouTube「緑のふるさと協力隊チャンネル」で配信
- ④あかつき教育図書発行「わたしたちと森林④ 保全と共生」に活動写真提供

(5) 共同活動の推進

関係団体への後援名義協力、関係団体との連携・協力を行いました。

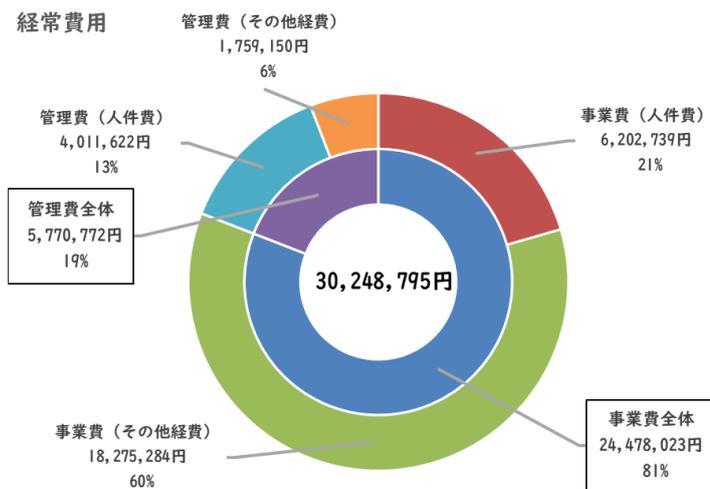
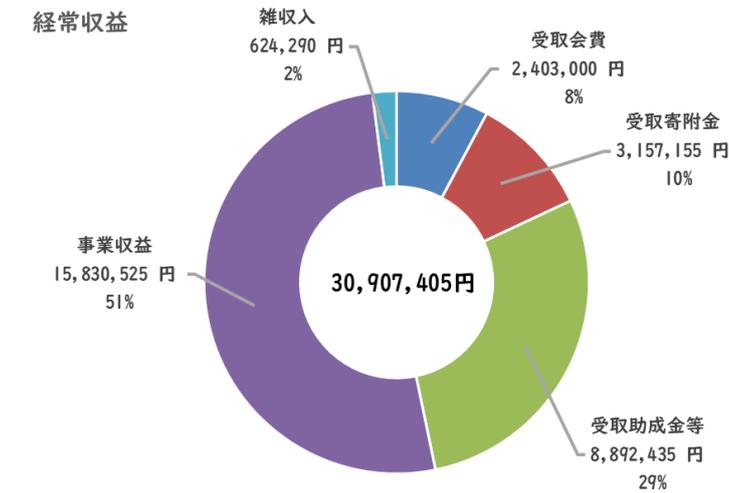
- ①インターンシップ生の受け入れ 東洋大学 国際学部2年生1人（10月～12月/14日間）
- ②東京しごとセンター NPOスタッフ体験事業の受け入れ 1人（11月/3日間）
- ③湘南国際マラソン大会実行委員会主催事業への協力 第17回湘南国際マラソン パネル出展（12月）

5. 事務所移転

八重洲二丁目中地区再開発事業に伴い中央区八丁堀へ事務所移転 7月24日（日）

会計報告

令和4年度は、受取寄付金・受取助成金が年度予算に比べて増収となりました。受取寄付金では、体験交流事業の森林ボランティア活動に対する企業や団体からの寄付が多くなっており、SDGsへの関心の高まりを感じます。会員・企業・団体からのご寄付のほか、「緑のふるさと協力隊サポーター制度」では、少額で活動を支援できる仕組みとして緑のふるさと協力隊OBOGを対象にサポーター登録を呼びかけ、支援の輪が広がっています。受取助成金では、日中友好会館助成事業「日中植林・植樹国際連帯事業」に係る助成金が多くを占めています。会員数が減少傾向にあり、受取会費が若干の減収となりましたが、事業収益は予算に沿った収益を得ることができました。



業」に係る助成金が多くを占めています。会員数が減少傾向にあり、受取会費が若干の減収となりましたが、事業収益は予算に沿った収益を得ることができました。

【寄付について】

令和4年度は合計で3,157,155円のご寄付をいただきました。

個人…37件、322,155円

企業・団体…7件、2,835,000円

連合「愛のキャンパ」、日本再生可能エネルギー株式会社、サンコービルサービス株式会社、合同会社グリーンゴールド、P&G ジャパン、(有)小原製作所、(株)ランナーズウェルネス

※順不同

【貸借対照表】 (単位:円)

資産の部

流動資産	
現金預金	22,241,749
未収金	535,500
前払費用	173,500
仮払金	2,372,443
流動資産合計	25,323,192
固定資産	
差入保証金	650,000
固定資産合計	650,000
資産合計	25,973,192

負債の部

流動負債	
未払金	1,393,589
預り金	164,965
前受金	380,000
仮受金	4,446,000
流動負債合計	6,384,554
固定負債	
退職給付引当金	1,594,550
固定負債合計	1,594,550
負債合計	7,979,104

正味財産の部

前期繰越正味財産額	17,335,478
当期正味財産増減額	658,610
正味財産合計	17,994,088
負債及び正味財産合計	25,973,192



ご支援ご協力をお願いします

皆さまからの寄付は大変大きな支えとなっています。地球緑化センターの様々な活動に有効に活用させていただきます。ご協力をよろしくお願いいたします。

▶**寄付** 地球緑化センターが実施している多彩なプロジェクトやそれを支える事務局運営費など、様々な場面で活用させていただくものです。

Syncable 寄付サイトでは、毎月一定額をご寄付いただける継続寄付も受け付けています。

▶**苗木募金** 中国及び日本国内での植林活動の苗木を購入するための募金です。

▶**緑のふるさと協力隊応援募金** 緑のふるさと協力隊事業を支えるために活用します。

▶**書き損じはがき・未使用切手の寄付** ご家庭にある書き損じはがき、年賀状、未使用切手等をお送りください。資料の送付等に活用します。



▶**不要になった洋服で支援**

ブランド品買取サービス「ブランディア」と寄付プラットフォームサービス「Syncable」の運営する買取寄付サービス『Brand Pledge』では、着なくなった洋服や眠っているブランド品で寄付ができます。

▶**携帯料金と一緒に寄付「つながる募金」**

ソフトバンクのスマートフォンから利用料金と一緒に寄付ができます。(Tポイントでの寄付も可)

寄付の方法

【現金での寄付・募金／書き損じはがき・未使用切手の寄付の場合】

地球緑化センター事務局まで送付またはご持参ください。

【振込での寄付・募金の場合】

寄付・募金申込フォームより必要事項をご入力の上、下記口座へご入金ください。

銀行振込：三菱 UFJ 銀行 八重洲通支店（普通）1011076 特定非営利活動法人地球緑化センター

郵便振替：00130-2-761479 特定非営利活動法人 地球緑化センター

★寄付・募金申込フォーム



【クレジットカードでの寄付・募金の場合】

オンライン寄付プラットフォーム「Syncable」地球緑化センターページよりご入金ください。

クレジットカードによる年会費の納入にも対応しています。



特定非営利活動法人 地球緑化センター

地球緑化センター（Green Earth Center：GEC）は、「緑、人を育む」をテーマに、社会の在り方や人の生き方を見つめてきました。環境問題、農山村の過疎化などの社会の課題に対し、市民一人ひとりが自ら考え行動できるよう、環境保全・地域づくり・国際協力の分野で個人や企業、教育機関など様々な人たちへ向け、多彩なボランティアプログラムの企画・提供、情報発信をしています。

◆設立 1993年（平成5年）2月21日

◆法人格取得 1999年（平成11年）9月13日

◆事務所 東京都中央区、中国・内モンゴル自治区

◆主な事業（1）国内 緑のふるさと協力隊（若者の長期農山村プログラム）

山と緑の協力隊（国内森林ボランティア）

緑の学校（児童・生徒への環境教育活動）

（2）海外 緑の親善大使（中国での植林活動）

（3）広報 機関誌「タマリスク」、会員向け情報紙「緑の通信」の発行

各種イベント出展

◆役員 理事長 小川 俊一（元 社団法人中央青少年団体連絡協議会 常務理事）

副理事長 永井 隆一（一般財団法人白山観光協会 専務理事 事務局長）

理事 青山 銀三（一般財団法人自然環境研究センター 上級研究員）

理事 浅井 正美（横浜市明るい選挙推進協議会 会長）

理事 坂井田 智宏（びわ湖高島観光協会 物産振興課課長/

緑のふるさと協力隊第12期0B 岐阜県飛騨市（旧河合村）派遣）

理事 坂本 貴啓（東京大学 地域未来社会連携研究機構 北陸サテライト 特任教授）

理事 城土 裕（一般社団法人日本森林技術協会 技術指導役）

理事 鳥澤 文彦（一般財団法人日本青年館 公益事業部事業課課長補佐）

理事 増田 和也（高知大学 農林海洋科学部 准教授/

緑のふるさと協力隊第1期0B 宮崎県日之影町派遣）

監事 鈴木 経彦（菅馬場谷特別緑地保全地区管理運営協議会 事務局）

顧問 高橋 成雄（前 地球緑化センター 理事長）

顧問 新田 均（元 地球緑化センター 理事長）

顧問 塚田 正之（地球緑化センター緑の親善大使を育てる会 代表世話人）

顧問 邱 華盛（元 中国科学院国際合作局 副所長）

会員募集

地球緑化センター（GEC）は、会員の皆様一人ひとりの思いを大切に、緑と人、人と人をつなぐ活動を続け今年で30年目を迎えます。運営は会員の皆様からの会費やご寄付、様々なご支援により支えられています。趣旨に賛同し団体を応援して下さる方のご入会をお待ちしています。入会希望の方は地球緑化センター事務局までご連絡ください。

特定非営利活動法人 地球緑化センター

〒104-0032 東京都中央区八丁堀4-11-3 金谷ビル2階201

TEL：03-5542-0132 FAX：03-5542-0136

MAIL：info@n-gec.org URL：http://www.n-gec.org

